

おし図書館

No.208

発行
代表
青木 和子
松本市牧の原1-10-4
TEL 0477-311-0886
104-416

「聖徳」から「明」への道

報告 塩崎 俊一

断るまでもなく、聖徳太子時代から中国明との交流までを俯瞰していることではない。1月25日に聖徳大学10号館で開催された図書館市民講座と、昨年11月に移転新設された明市民センターに設置された明図書館分館のことである。

市民講座は市立図書館と聖徳大学との連携事業として開催され、テーマは「図書館で出会う・つながる・学びあふ」とあり、約50名の市民が参加した。聖徳大学生涯学習研究所の長江所長は、サブタイトル通り、図書館は社会教育施設であると共に生涯学習施設であることを一貫して強調され、自分も大いに共鳴した。

そして、松戸図書館政策の経過と、現状の弱みにも触れ、強みに変えるには中央館と小規模分館の連携を強め乍ら、市民図書館利用マイレージ制度の導入やボランティア育成を提言された。言われる通り、図書館がまちづくり、コミュニティの中心になるかは担い手の人づくりと共によりカレント教育(基礎教育の終了後、生涯にわたって教育と労働や余暇を交互に行う教育システム)の成果を社会参加につなげる仕掛けが必要条件になるのではないかと感じた。

余談ながら「今回行く所のあじろ」と「今日用事がある」教養の人を掘り起こすべく、聖徳大に関係深いアノ毒蠅三太夫さんが言うように「ババアよりジジイ頑張れ」メールを送る理由は、ここにあるのではないが。

次に、来年度末完成見込みの建設計画が決まった東松戸図書館の概要説明があった。ハード的なイメージと数値だけで簡単に終わらしたので、その後のワークショップで運営的なソフト面に触れる展開があるかと期待した。しかし、6班に分かれたグループに示されたテーマは「こんな図書館になったらいいな!」という一般的な理想や願望に面白いアイディアを放出する話し合いだった。

それぞれの思いがたつて次第に熱を帯びて、ワークシoppとしてのまよめの発表は無難に終わったが、新設の東松戸図書館の内容

や運営展開にどうつながるかは不透明だ。東松戸が出来るまで図書館政策として利用(活用?)の市民への啓発活動は進められようが、従来の講座やシンポジウムに加え、市のパートナー(出前)講座へのメニューにエントリーしたり、毎年の生涯学習大学のカリキュラムに入れる等の検討は如何であろうか。これからの新しい図書館認識や広く利用の浸透を目指すなら効果であろうと信じる。また、ネット時代による情報管理の変化で文字離れの進む今日、子どもの読書活動推進として各地の自治体が導入しているビブリオバトル、いわゆる知的書評合戦など各中学校に大々的に参入させ、コミュニケーションバトルは知的成長を促すに違いない。

松戸市当面の重要課題である「公共施設再編問題」のうち、図書館

の市民センターの整備日程計画が内定段階に入って、その第1号が明市民センターであった。昨年11月13日、新京成電鉄上本郷駅側から移転開所。以前の場所から坂を下って信号を右へ曲がり、駅から約40mの幹線道路沿いに立地された。

二階建て、南面向きの玄関から入るとすぐ左が図書館分館で気軽に立ち入れる。まだ開館早々ながら館員も利用市民も生き生きと楽しそうに立ち働いて見えて、全体に活気を感じたのは他の分館より明るい採光のせいだろうか。玄関横面の駐車場(台用)に面したフリースペースとキッズスペースの場所が良く、この柔かい雰囲気なら読書も進むと嬉しい気分になった。

書架の配列は、真ん中に児童図書用が3列あり、高さ170cmが手に取り易く、カウンターから

も近い。一般図書は入って右側奥と壁面に配置され、こちらは230cm、2段の書架が8ケース。最上段は空段となっていたが、まだ開館して3ヶ月なのでこれからと見た。東松戸に予定されている様な面積(約1000㎡)には速く及ばなくても(約1/10)ネット活用を生かした

取り寄せの迅速化や相談への機転が利く対応で利用満足度が上がれば、前施設時代の数値実績(昨年度貸出し11万4000冊)より伸長する事だろう。名前の通り「明るく」の何よりの感じの良さをウリに確かな一歩を期待したい。

願わくは、車の行き交う大通りで向かいが駅より乗降受付の薬局があるが横断歩道を設定して貰いたいのだ。公共施設への歩行者の安全確保の為にも。蛇足ながら、市民センター2階へのエレベーターがついたのは嬉しい。(3階建ての前施設は階段のみだった)

投稿

「図書館」をもっと知りたくて

「おい図書館」入会のお願ひ

堀健二

松戸市六高台在住の堀と申します。

一月25日(土) 松戸市立図書館主催の

「図書館セミナー」にて青木代表と

お会いし、この会を知りました。

本や図書館などに深い好奇心は

持っておりましたので「例会

を覗いてみて下さい」と気軽に

声をかけて頂いたこともあり2

月8日(土) 明市民センターでの例

会にお邪魔しました。

以下、貴重で会報エリアと

お借し、入会のお願ひと共に図書館

への関心などを2点ほどお伝えし

ます。

① 栗本図書館

長野県諏訪にある「栗本図書館」

を以前本で知りました。(「一

図書館の由来記」栗本和夫著)

白磁のような本、図書館と形容

されていますが、残念なことに

現在は閉館しているようです。

となにか訪問された方がおら

れたら、様子をお聞きしたい。

そして外観だけでも一度訪ねて

みたいと考えております。

② 北のアルプス図書館

北海道斜里町にある美術館に

串田孫一さんの書斎、仕事場が

復元されています。夏場を狙っ

て是非訪問してみたい、ゆっく

く時間をかけて見てみたいです。

行かれた方はいらっしゃいますか？

学生の頃、図書館の広い机で

本を読んだり、カード目録を適

当にのくくってみたり、結構好き

な時間でした。図書館司書の履

「図書館」を勉強する上でどうで

しょうか。会員で図書館司書のお

仕事をされている方からお話を聞

く、アドバイスを頂けたらありが

たいです。

全国に特色のある図書館が多数

あり(書籍「一度は行きたい図書

館」)、ぼふりぼふりと訪ねてみ

たいと考えていたところでした。こ

の会でも各地に出かけているとお

聞きし、参加できたらとても嬉し

いです。

松戸市の「今後の図書館の在り

方」等の大切な課題からはほど遠

い意識です。実は最近、アマゾ

ンのKindleで本を買って、読むこ

とが多くなっております。真面目

に活動できるか、自信はありませ

んが、仲間に入れていただければ

嬉しく、何卒宜しくお願いします。



教育長と面談

2月6日(木)、伊藤教育長との面談が実現しました。

昨年11月に明分館開館。2021年末には東松戸地域館が開館予定。次は中央館！と明るい期待を語って下さいました。



二〇二〇年

松戸市議会三月定例会

報告 青木和子

2月25日(木)3月市議会に先立って市長の施政方針と教育長の教育施政方針が発表されました。

施政方針

「松戸市人口ビジョン、松戸市総合戦略」は2019年度(平成31年度)から2029年度までの5ヶ年計画として策定されたが、1年延長されて

2020年度までとなった。

4つの目標を設定

1. 子育て・教育・文化を軸にした都市ブランドづくり
2. 高齢者がいつまでも元気に暮らせるまちづくり
3. まちが再生し、賑わいのあるまちづくり
4. 経済が活性化し、安心して働けるようになるまちづくり

昨年の台風15号19号は県内に

甚大な被害をもたらした。気候変動に対応する防災対策をより一層強化しなければならない。

今年中には松戸市の人口は50万人に達する事が見込まれる。安全安心なまちづくりのため、ハード面・ソフト面の対策を着実に進めたい。

教育施政方針

2030年を見据えて教育委員会の

基本的な指針となる「(仮称)学びの松戸モデル」策定の準備。

○学力向上への取り組み

○特別支援学級の充実

○魅力ある市立高校づくり

○教職員の働き方改革

○学校教育環境の整備・充実

○知の拠点づくり

・松戸市図書館整備計画に基づいた図書館ネットワーク整備

・子どもの読書活動推進計画を策定

・地域の中学校となる(仮称)東松戸地域館の建設工事開始

○生涯学習の推進

○文化の拠点づくり

○スポーツの拠点づくり

☆「(仮称)東松戸複合施設建設事業(継続費)」として3億2299万円が予算計上され、3月市議会



で承認されました。